

第5回 社会主義 リアリズム文学 研究会

開会のあいさつ

久野量一(東京外国語大学)

紅い世界文学と『鋼鉄はいかに鍛えられたか』

越野剛(慶應義塾大学)

司会：中村唯史(京都大学)

日本における社会主義リアリズム受容の一側面：宮本百合子の方法論を軸に

池田啓悟(立命館大学)

司会：和田崇(三重大学)

馮徳英『苦菜花』—1950年代中国社会主義プロパガンダ文学における母親像

田村容子(北海道大学)

司会：鈴木将久(東京大学)

閉会のあいさつ

楯岡求美(東京大学)

開催日時 5月7日 14:00～18:00

オンライン・対面開催（会場：慶應義塾大学日吉キャンパス）

*対面で参加希望の方は人数制限がありますので5月1日までに連絡ください。

参加登録 URL：<https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/tZYvceigqzsvEtZErS--uz3CCIGS3Yw9Jzg1>

問い合わせ先：gkoshino@hotmail.com（越野）

共催：基盤研究(B)「社会主義文化のグローバルな伝播と越境—「東」の公式文化と「西」の左翼文化」
挑戦的研究(萌芽)「革命を踊る：中国とソ連における身体表象のインターテクスチュアリティ」



参加登録 URL

科研費
KAKENHI